

帝京科学大学

ディプロマ・ポリシー

帝京科学大学が定める各学科の卒業要件単位以上を修得し、更に学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

帝京科学大学の建学の精神に基づき、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科において、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を編成、実施し、教育評価を行う。

- ・教育内容（授業科目の編成方針等）
- ・教育方法（授業方法、専門科目と実習との整合性・連続性、国家試験対策、教員就職対策等）
- ・教育評価（到達度の確認、卒業論文の扱い等）

アドミッション・ポリシー

本学の建学の精神は「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。」という言葉で示されている。各学部学科では、その分野の高度な専門知識を教授するとともにこれを適切に運用する高い倫理的判断能力を涵養し、修得した学術に対する豊かな見識を社会に還元できる人材を育成することにより建学の精神を具現化する。

入学者に対しては、志望する学部学科で必要とする基礎的な知識のみならず、自然と人間の共生に関心を持ち、社会に貢献したいという使命感とそのために必要な学術を継続して修得したいというしなやかで強い意志を持った人を歓迎する。

生命科学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（理学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

学術の基礎分野を理解できるだけの数学・生物・化学・物理などの自然科学系及び海外からの情報を取り込める語学系の能力を有するとともに、生命・健康及び医療分野における高度な専門的知識と実践力を修得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

国内のみならず外国における学術の急速な進歩に対して、十分追従できるだけの理解力と分析力及び語学力を有して学際領域などへ積極的にチャレンジできる能力や、様々な情報通信技術を利用して、情報収集や発信ができる能力を修得している。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

知・情・意の均整のとれた教育を通して専門的知識や技能だけでなく人間性に富んだ人格を有する個人として、常に各自が所属する職場や地域にいかに関与できるかを考え実践する態度を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

幅広い知識と技術に裏付けされかつ生命の尊さを理解している生命科学及び健康科学の技術者・研究者並びに医療工学分野の知識と実践的技術を身につけた医療技術者である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

- ・生命科学の高い知識と技術をもち、社会に還元できる人材を育成するため、1年次から段階的に専門科目を配置することで、生命科学に対する興味を引き出し、無理なく高度な知識に到達できるカリキュラム編成とする。
- ・1年次より学習の進行に合わせて、基礎から応用にいたる豊富な実習をカリキュラムの根幹として配置し、卒業研究へとつなげて行くことで実践的な技術・知識を身につけられるようにする。
- ・臨床工学コースについては、生命科学と電気工学、電子工学の知識をしっかりと身につけた人材を育成し、国家試験合格に向けて充実した講義科目を設置することで、臨床工学技士資格取得にしっかりと取り組むことの出来るカリキュラム編成を行う。
- ・帝京科学大学の理念に則って、単に資格や技術を修得することにとどまらず、人と自然の調和をめざし、優れた倫理観を兼ね備えた、時代を担えるような人材の育成に資する教育課程を目指す。

(教育方法)

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実験科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・臨床工学コースでは国家試験対策のためのセミナーを開設する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は修得単位数と卒業に必要な要件を満たすことによって総合的に評価を行う。
- ・臨床工学コースで臨床工学技士を目指す学生は3年終了時に帝京短大専攻科への進学条件を満たさなければならない。

アドミッション・ポリシー

生命科学科では、生命と健康を科学的に捉えて生命現象を解き明かすこと及び医療技術の進歩や、医療機器の先端化・複雑化に伴って要求される高度な知識を持った医療技術者を育成すること、という2つの社会的要請に応え、健康、食品、化粧品、医療、環境分野の実践的スペシャリストを育てることを目的としている。

高校において生物、化学、物理のいずれかを学び、生命コース及び生命・健康コースでは、生命や自然に対して興味を持つ、又はヒトの健康に関心を持つ科学的探究心旺盛な高校での基礎学力（生物、化学）を持つ学生の入学を希望する。臨床工学コースでは、臨床工学分野へ積極的に取り組もうとする強い意欲を持ち、チーム医療に貢献できる社会性、協調性を備えた、基礎学力（物理、生物、化学）を持つ人を求める。

自然環境学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、社会生活上身につけておくべき技能、態度や志向性などが身につけており、学科として目標にする人間像に相当すると認められる者に学士（工学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

生物科学ならびに環境科学における体系的学修を通して人間・社会・自然に対する理解を深めるために、専門領域を越えて人類の文化や社会、自然、特に環境に関する問題を探求する姿勢を身につけている。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

全学共通カリキュラムの多面的履修を通して基礎的な学習能力を養い、専門科目の履修により高度な知識を修得し応用力を深め、現代の多様な課題を発見、収集、分析し、その課題を解決する能力を身につけている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

演習や実験実習等のカリキュラムの履修、さらにはカリキュラム以外の課外活動等の大学生活を通して、自己管理・他者との協調・協働等のチームワークの重要性を理解し、高い倫理観を持ち社会の一員として行動できる能力を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

4年間にわたる「講義」「演習」「実験」「実習」での学習や「卒業研究」の計画立案、遂行と成果の発表を通して、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探究力、問題解決力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につけ人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・1年次には、主として1年次学生を対象とした共通科目として「教養科目」、「情報系科目」、「コミュニケーション科目」「保健体育科目」を開講する。また、大学教育の導入としての「基礎ゼミ」を開講する。さらに、自然環境科学を学ぶための基礎となり、かつ動機づけとなる、「専門基礎科目」ならびに「基礎科学実験」を開講する。
- ・2年次には、「専門基礎科目」に加えて、より専門性の高い「専門科目」を開講し、履修が始まる。生物環境分野では主として自然や生態系を理解するための「マクロ系生物学」の基礎に関する科目、生物機能を理解するための「ミクロ系生物学」の基礎に関する科目、環境科学分野では環境分析や環境浄化などの理解を助けるための「基礎化学」に関する科目を開講する。また、実践力の養成に資する「環境科学演習」、「環境化学実験」、「環境科学野外実習」を開講する。
- ・3年次には、生物環境分野、環境科学分野ともに、より高度な内容を修得するための科目を開講する。生物環境分野では、「マクロ系生物学」、「ミクロ系生物学」とともに発展科目、環境科学分野ではより高度で広い分野を取り上げる展開科目を開講する。また、実践力の養成に資する「環境生物学実験」、「環境生物学野外実習」、「環境特別実習」を開講し、卒業研究の導入に相当する「自然環境セミナー」を開講する。
- ・4年時には、各研究室に所属して特定の研究テーマに取り組み、知識および科学的手法の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力の統合的修得を目指した「卒業研究」を履修する。

（教育方法）

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実験科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

（教育評価）

- ・4年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、論文指導教員の指導の下で総合的に評価を行う。卒業研究に着手するためには、3年次修了時に92単位以上を修得していなければならない。

アドミッション・ポリシー

自然環境学科は、人類の発展に伴って発生した多様な環境問題を検証し、その解決を目指し、自然の維持と再生のための知識と科学的手法を修得した、実践的な人材の育成を目的としている。

本学科は、環境問題について、自然に親しみながら動植物との関係から捉え、生物学的な視点から考える生物環境分野と、環境を高度な分析により正確に判定し、環境の浄化、クリーンなエネルギー開発などを行う環境化学分野のカリキュラムを用意している。いずれの分野でも実験、野外実習を重視し実践力の涵養に力を入れている。

高校では生物と化学を履修し、基礎学力を身につけていることが望まれる。本学科の目的を理解し、自ら進んで学習に取り組み、自然を取りまく多様な環境問題を自ら探求、解決する力を養い、人と自然が共生する持続型社会の発展に貢献する強い意欲を持った人を求める。

アニマルサイエンス学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（理学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

ヒトを含む動物の基礎生物学的な専門知識を幅広く有し、それらを科学的な思考によって展開してプレゼンテーションできる能力を修得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

動物や人の行動はもとより、日常生活で起こるさまざまな事象・問題を科学的な視点から見つめることができ、分析・理解してそれを正確に表現できる能力を修得している。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

自ら動物を心から愛し、また動物を愛する他者を理解することができることを目指します。日常の中からさまざまな問題点を抽出し、問題解決にとりくめる能力を修得している。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

動物にかかわる基礎知識と専門知識を幅広く有し、「人間と動物のよき共生」という視点から社会に貢献できる人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

- ・アニマルサイエンス学科の理念である「人と動物の『共生』」を、科学的な視点で分析・理解・表現できるようになるための、基礎科目と応用科目を配置する。
- ・専門的な知識と技術を実践的に学ぶための実習科目を重視する。また、学生各人の実習や実践活動を評価する制度を配置する。社会において新たな領域を開拓する人間を育てるため「コミュニケーション力」「組織マネジメント力」を重視する。
- ・専門性を高めるため、[アニマルサイエンス]、[アニマルセラピー]、[野生動物]、[動物看護福祉]の4コースを設置、関係資格取得のためのカリキュラムを配置する。

(教育方法)

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実験科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、論文指導教員の指導の下で総合的に評価を行う。卒業研究に着手するためには、3年次修了時に92単位以上を修得していなければならない。

アドミッション・ポリシー

アニマルサイエンス学科は、動物の生態、行動、心理、健康、福祉、さらには人の健康と福祉に寄与するために動物を介在させた活動から環境教育分野に至るまで、人と動物の関係に関する諸側面を科学的に理解し、動物と人とのより良い共生の創造に貢献する人材の育成を目指している。

本学科には、動物看護福祉コース、アニマルサイエンスコース、アニマルセラピーコース、野生動物コースのカリキュラムが用意されているが、いずれのコースを志望するにしても、本学科の目的を理解し、専門知識と技術の修得に強い意欲を持ち、基礎学力とともに高い倫理観と豊かな感性を備え、将来の成長が期待される人の入学を希望する。

特に、英語、理科、数学の科目に秀で、また、課外活動にも熱心に取り組み、社会貢献に対して強い意欲を持って実践できる人を求める。

理学療法学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（理学療法学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

基礎・臨床医学に基づいた理学療法学の基礎力を基盤とし、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得する。また、現代社会の多様化されたニーズに応じた諸問題を解決するため、科学的根拠に基づいた実践的な理学療法を修得し、共存する人と環境との調和を理解する。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

他者の心身を理解するコミュニケーション・スキル、臨床上に起こる現象論を十分な知識と理解から論理的に分析する思考力、迅速な判断により疾病の障害像に対応する優れた臨床力のある問題解決能力を身につける。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

高齢社会、国際社会に適応すべく対象者・文化の多様化による医療・福祉社会情勢の変化に即応できるように、常に自らの能力を客観し評価することで自己修正し、生涯学び続ける姿勢を有することのできる志向性を身につける。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

専門性の確立を目指した実践、教育、研究の基盤を身につけ、他領域の人々と連携できる学際的な能力を構築し、将来、専門職として、幅広い社会的活動及び国際的医療活動を通じて社会に貢献できる人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・現代社会の多様化されたニーズに応じた人材育成が必要とされるため、知性と感性の調和の取れた豊かな人間性、基礎的知識と自主性に富んだ学習能力の修得を目指す。加えて、国家資格取得に必要な重点科目や学際的科目を相互に設置し、医療・福祉・保健に携わる専門職として適応力の高い人材育成のカリキュラムを編成する。
- ・人間の医療・福祉・保健領域に共通する専門的な方法論と知識を体系的に学び、日々進歩する医療技術の革新にも適応しうる高度な専門的知識を深化させるため、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の連携を前提に段階的に講義、演習、実習科目を配置する。
- ・医療・福祉・保健領域のスペシャリストとなる臨床的実践力の育成の場として、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などのキャリアを形成する目的で、医療科学全般に関する研究や議論を推奨し、実践力に積み上げる参加型少人数授業を実施する。

（教育方法）

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員により、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得するための講義・演習授業を開設する。

（教育評価）

- ・4年間の学修成果は修得単位数および評点により、学習状況が国家資格取得水準に達しているかについて、総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

21世紀のリハビリテーション医療は、障害された機能の回復を目指すのはもちろんのこと、身体的・精神的・社会的な諸問題を予防し、一人ひとりが豊かな人生を送るための援助をするなど、幅広い分野の活動が対象となる。このため、これからの理学療法士により求められるのは、基礎学力、学問研究に対する意欲、旺盛な好奇心、豊かな感性、そして何よりも『人を思いやる気持ち』である。

本学科の学生には、おおよそ次のような資質を備えることが望まれ、これを実践できる人を求める。

- 1 医療・保健・福祉に対する深い関心があること
- 2 特に理学療法に興味を持ち、将来はその専門分野における実践・指導に携わることを決意していること
- 3 素直で明るい人格を有し、優れたコミュニケーション能力や社会人としてのマナーを備えていること
- 4 病者・弱者に対する共感と、適切な倫理観を持つこと

作業療法学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（作業療法学）の学位を授与する。

【知識、理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

基礎医学・臨床医学・社会学・作業科学・作業療法学等を基盤とした人-作業-環境、および作業と健康に関する専門的知識を修得し、作業療法プロセスにおいて根拠をもとに適切な実践ができることである。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

保健・医療・福祉・教育を含む多様な実践現場で力を発揮するために、作業療法実践の場の歴史的・社会的・文化的背景を理解しつつ、対象者や他職種と適切な人間関係を構築することができる能力を身に付ける。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

人の生命・生活を尊び、健康の促進に責任と役割をもつ専門職として、人類・社会に貢献することを喜びとし、常に学び続ける事ができる能力を身に付けている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

作業療法士として強い自覚、豊かな感性、科学的思考、創造的探究心を備え、自然・動物・保育・理工学の知識技術を作業療法へ統合する力を持ち、人の健康と幸福のために情熱をもって作業療法に取り組む事ができる人材である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

- ・人の心身・作業・環境の関係を正しく理解し、作業を通して人の健康を援助するうえで基盤となる知識・技術を講義、演習、実習で学ぶことで、医療・福祉・保健・教育の幅広い領域への健康支援のために実践能力を備えた人材を育成する。
- ・医療に携わる専門職として、高い倫理感と道徳観をもって対象者と関わる姿勢、適切な判断を行う能力を身につけるために、入学早期から、学内で病や障害の当事者の話しに耳を傾ける機会を設ける。また、早期臨床実習、評価実習、総合臨床実習を段階的に行い、医療人としての認識を確立していく。
- ・生命の尊厳を謳う本学の基本理念のもとに、すべての命に対する尊厳を保ち、自然・動物・保育・理工学に関する知識を得ることで、多様な専門職との連携や共同作業を行える能力を育成するとともに、人間に関わる本学独自の特徴ある作業療法カリキュラムを配置する。

(教育方法)

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員による国家試験対策のための時間を開設する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

作業療法学科では、「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。」という建学の精神に基づき、医療、福祉、保健、教育の分野において幅広く活躍し、医療人として誇りを持ち、常に高い専門性を身につけ、社会に還元できる作業療法専門職の養成を目的としている。

そのため、作業療法士になろうとする強い意志を有し、他者の言葉に耳を傾け、自ら積極的に行動し、日常生活を科学する意欲を持つ、次のような経験や知識を有する人を求める。

- 1 社会貢献などボランティアの経験を有すること
- 2 部活やサークル、趣味など、継続した活動の経験を有すること
- 3 国語、数学、理科、英語、社会などにおいて幅広い基礎学力を有すること

柔道整復学科

ディプロマ・ポリシー

柔道整復学科の卒業要件単位以上を修得し、柔道整復学科として専攻する学問分野で身につけておくべき柔道整復学の内容、卒業後の柔道整復師としての社会生活上身につけておきたい臨床技能、市民、社会人として身につけておきたい柔道整復師としての態度や志向性、人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（柔道整復学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけておくべき内容>

保健・医療において、柔道整復専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得してさまざまな状況で活用できる。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけておきたい技能>

専攻科目に取り入れている柔道の有段者になることにより身につく礼儀、相手を敬い尊重する仁術の心、およびその基本となる倫理観を培う力を身につけている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけておきたい態度や志向性>

市民、社会人として責任ある行動をとり、社会生活において自己の担うべき役割について探究する姿勢、ならびに礼儀の習慣やコミュニケーションを重視する姿勢を身につけている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

社会人、医療人として必要な倫理観や道徳を身につけ、専門職者として必要な課題、目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができ、情熱のある豊かな人間性を備えた人間である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、柔道整復学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた講義・演習および実習を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

- ・社会人・医療人として必要な生命に対する畏敬の倫理や道徳を身につけ、専門職者として必要な課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組む専門性と対応力を育てる。また、個性ある教養人として自己を磨く熱意や意欲を積極的に発揮できるような豊かな人間性、そして「仁」の精神をもとに心身を癒す実践能力と「実学と教養」を重視した柔道整復師の育成を目指してカリキュラムを編成する。
- ・科学大学としての使命である学術を系統的観点から探究し、科学的根拠にもとづく医療・研究を行うための知識と技術を身につける実践教育としての臨床実技実習を重点的に学ぶ。
- ・専門科目に柔道を開講し、柔道から柔道整復術の源を学ぶとともに人間教育に力を注ぎ、健全な身体の育成と礼節を尊び、常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観と医療人としての慈しむ心を持った専門職医療人としての実践的スキルを身につける。

(教育方法)

- ・柔道整復学専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた講義・演習・実習を展開する。
- ・柔道整復学専門科目では、講義・演習、実習の整合性・連続性をはかり、フィードバック可能な授業を展開する。
- ・学科教員による厚生労働省の柔道整復師国家試験対策のための講義演習授業を開設する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び柔道整復師国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

柔道整復学科では、次の人材を育成することを目的とし、強い意志を持って実践できる人を求める。

- 1 生命に対する深い畏敬の念を持てる方
- 2 医療人として、人に対する慈しみの心を持てる方
- 3 柔道整復に対して強い関心を持ち、将来にわたって社会貢献をしていきたい方
- 4 明確な目標を持って勉学と実習に取り組む向上心のある方
- 5 生涯にわたって学び続ける向学心と人間形成に努める謙虚な姿勢を持てる方

東京理学療法学科

ディプロマ・ポリシー

学科が定める卒業要件を満たし、専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（理学療法学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

理学療法士に必要な医学的知識および理学療法学について、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得している。

- (1) 基礎医学に関する知識の理解
- (2) 理学療法学に関する知識
- (3) 国家試験に合格しうる知識

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

理学療法士として業務を行う上で必要なコミュニケーション・スキルおよび技能について修得している。

- (1) コミュニケーション・スキル
- (2) 理学療法評価法の修得
- (3) 理学療法治療法の修得
- (4) 問題解決能力

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

医療従事者として倫理、生涯学習において自己点検できる能力を有し、他職種とともに協働できる能力を修得している。

- (1) 自己管理能力
- (2) チーム医療
- (3) 医療従事者としての職業倫理
- (4) 生涯学習能力

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

多様な要望に即応できる質の高い理学療法士を目指し、理学療法士として常に自らを点検し・評価できる能力を有し、生涯学び続ける姿勢を身につける。また、科学的根拠に基づく理学療法のための研究や高度な徒手的技术を身につけ、後進の指導にも情熱を注げる職業人を育成する。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

- ・理学療法を体系的に教授し、医療職にふさわしい全人的な教育を行うため、教育課程を共通科目（基礎分野）、専門基礎科目、専門科目の3領域に大別し、理学療法に関連する知識の獲得とその実践能力を涵養する。このため講義形式の授業と平行して関連する実習・演習を配置する。
- ・学生が自身の将来像を見据え、自己学習に取り組む姿勢と動機付けが行えるよう、初年次から学外臨床見学の機会を設ける。引き続き、理学療法士として必要な実践的臨床能力と知識の統合を図るため、2年次臨床検査測定実習、3年次臨床評価実習、4年次臨床総合実習として実地実習を配置する。
- ・チーム医療における他職種との協働を学び、自らを点検・評価できる理学療法士を養成するため、実践に関する授業配置に重点を置く。更に、科学的思考力を備えた理学療法士の養成を目指し、1年次において理数系基礎科目の修得を担保するとともに、3年次において研究法に関する講義を、更に4年次には卒業研究を選択できるように配置する。

(教育方法)

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員により、理学療法士国家資格に準拠する専門的知識を修得させるための講義・演習授業を開設する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は修得単位数および評点により、学修状況が国家資格取得水準に達しているかについて、総合的に評価を行う

アドミッション・ポリシー

21世紀のリハビリテーション医療では、障害された機能の回復を目指すのは当然のことながら、身体的・精神的・社会的な諸問題の予防、豊かな人生を送るための援助などが行われている。

これらに対応できる理学療法士には、基礎学力と学問研究に対する意欲、知的好奇心と旺盛な向上心、優れた治療技術は言うまでもなく、人を思いやる気持ちが求められる。

本学科では、何事にも積極的に取り組む姿勢と豊かな創造性を持ち、リハビリテーション医療の実践の場で活躍できるような潜在能力を持った受験者の選抜を行う。医療に携わる分野の特殊性から、広く科学と生命に対する興味と基礎的な知識を持つことのできる人を求めます。なお、リハビリテーション医療分野でのボランティア活動の経験が望まれ、また、数学、物理学、生物学を学習しておくことが望まれる。

東京柔道整復学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（柔道整復学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

平安朝から江戸期を通じ現代柔道整復医療に脈々として生きている伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識、最新技能までの体系的知識を修得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

絶え間なく進歩する最新の医療技術に関心と理解を示し、専門的な研究や実践教育で開発された成果をもとに、科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を備えている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

患者の痛みを訴える心を理解し、解決のためのチームアプローチを運用する協調性、および社会生活や活動を円滑に保持し豊かな人間性を希求する態度を修得している。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

豊富な臨床体験教育を通して、外傷で悩む者をいかに早期に社会復帰をなし得るかを考え、情熱的で独創的能力を身に着けた最良な技能を有する柔道整復師である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・ 共通科目(基礎分野)、専門基礎科目、専門科目を系統的に配置し、関連科目の連携を重視しながら計画的に実施することで、社会の一員として協調性をもちながら自主的に活動し、生命の尊厳を考え、高い倫理性を持って幅広く国民の健康の回復と維持に貢献する人材を育成するカリキュラムを編成する。
- ・ 医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、専門基礎科目において、疾病および傷害を理解し、臨床現場で実践可能な知識とコミュニケーション能力を獲得できる講義、演習および実習を配置する。
- ・ 専門科目において、平安朝から江戸期を通じ現代柔道整復医療に脈脈として生きている伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識と技術を修得し、外傷施術を科学する探究心を涵養し、地域医療に貢献できることを目的とした講義、演習および実習を配置する。アドバンスセミナー、柔道セラピー総合実習、総合柔道整復セラピーにおいては、柔道整復師国家試験に合格するための自己学習を動機づける。

（教育方法）

- ・ 専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・ 専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・ 学科教員による国家試験対策のための時間を開設する。

（教育評価）

- ・ 4年間の学修成果は修得単位数、評点及び国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

柔道整復は、日本文化の長い歴史の中で育まれた世界に誇れる伝承医学である。急性外傷である骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷の施術領域は、その専門性について社会的信頼は厚く、WHOの伝統医学分野で認知されている。スポーツ外傷等の分野における柔道整復の知識や技術を修得するのみならず、幅広く健康の回復と維持に貢献する医療分野である。

本学科では現代の予防医学を背景に、外傷施術を科学する探求心を養い、地域医療に役立つ個性豊かな人材を育成することを目標としており、次のような人を求める。

- 1 基礎医学の学習に必要な基礎学力（物理、生物、化学）を備え、知識や技能の吸収に積極的な人
- 2 生命の尊厳を考え、重んじることができる人
- 3 社会の一員であることを自覚し、協調性をもちながら自主的に活動ができる人
- 4 創意工夫の努力ができる人
- 5 柔道整復について強い関心を持つ人

看護学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい資質について十分に身に付いていると認められる者に学士（看護学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

- (1) 人間を全人的・統合的に理解するために物事を多面的に捉えられる幅広い教養を身につけている。
- (2) 看護を実践するための科学的な専門知識・技術を修得している。
- (3) 地域社会のヘルスニーズや人のライフサイクルに伴う社会生活を視野に入れ、より健康にその人らしく生きるための知見を有している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

- (1) コミュニケーション・スキルの基本を修得し、人間関係を形成している。
- (2) 科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

- (1) 人間の尊厳と生命を尊重する姿勢に基づき、対象者に対する倫理的判断をすることができる。
- (2) 保健・医療・福祉システムの中で、多職種と連携・協働し、看護の専門性を発揮する基礎的能力を修得している。
- (3) 自らの行動を省察し、改善する姿勢を有することができる。
- (4) 主体的な学習態度を身につけ、看護専門職者として生涯学び続ける姿勢を有することができる。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

人間の生命に対する深い愛情と畏敬の念を基盤として、高い倫理観と豊かな人間性が形成され、国際的な視野を持ち幅広い教養と看護職者としての専門知識・技術を修得し、人々の健康の維持増進に貢献するとともに、看護学の発展に寄与する姿勢を有することができる人材である。

カリキュラム・ポリシー

生命の尊厳を深く学び、高い倫理観を持ち、看護学の発展や地域社会の人々の健康に貢献できる看護専門職を育成するため、以下のような方針に基づき、教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

1. 対象となる人の人権を尊重する豊かな人間性と倫理観を育成するため、多様な教養科目を配置する。
2. 看護学の基盤として、人体や病態を理解する科目と保健・医療・福祉を統合的に理解する科目を専門基礎科目に配置する。
3. 看護学としての専門知識・技術を学び、科学的思考を育成するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展を系統的に配置し、概論、方法論、実習の順に教授する。
4. 多様な健康レベルや生活の場における看護実践能力を養い、地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培うための科目を配置する。
5. 主体的に学び、将来の多様なキャリア発展の可能性を追求するため、看護研究、国際看護、認知症ケア、リプロヘルスケア、スピリチュアルケア、ホリスティックケアの科目を配置する。
6. 地域の健康課題の解決のための個人・家族・集団・地域への継続的支援ならびに住民のニーズを施策化できる保健師教育を選択制で行う。

(教育方法)

- ・ 専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・ 専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・ 学科教員による国家試験対策のための授業を行う。

(教育評価)

- ・ 4年間の学修成果は修得単位数、評点及び臨床実習の状況並びに国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

看護学科は、生命と個人の尊厳を深く学び、高い倫理観を持ち、国際的視野に立った幅広い教養と人間性が豊かで、科学的思考に基づいた専門知識と技術を身につけ、看護学の発展や地域社会の人々の健康に貢献できる看護専門職の養成を目的としている。

そのため、次のような資質・能力を持つ人の入学を希望する。

- 1 生命に対して深い畏敬の念を持ち、高い倫理観が持てる人
- 2 地域社会や人間に対して関心を持ち続けられる人
- 3 多様な価値観を持つ人々との関係性を築くことができる柔軟性が持てる人
- 4 看護学に必要な基礎学力（国語、英語、生物、数学など）を備え、研鑽し続けられる人
- 5 課外活動やボランティア活動などに主体的に参加できる人

医療福祉学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件 124 単位以上を修得し、学科として専攻するグローバルな視野に立った教養・専門知識・技術・倫理観を修得し、卒業後の職業、社会生活上身につけさせおきたい技能・態度や志向性、福祉人材として多様な文化を受け入れ専門職として問題解決力・実践力を身につけた者に学士（医療福祉学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせおくべき内容>

- ①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、社会福祉に関する今日的な課題を理解している。
- ②社会福祉の専門職として専門的知識や技能を修得している。
- ③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせおきたい技能>

- ①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えることができる力を獲得している。
- ②他者と協力・協力して社会に参画し、自ら新たな社会を創造・構築していくことができる能力を修得している。
- ③自己理解能力と、自らの思考や感情を律することができる力を身につけている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせおきたい態度や志向性>

- ①社会福祉分野の専門職として、倫理観・規範意識を身につけ、福祉サービスの利用者及び利用者家族から信頼を得られる道徳的実践力をつけている。
- ②絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢をもっている。
- ③科学的思考力に基づく判断力やコミュニケーション能力、観察力、洞察力を身につけ学習者としての態度や志向性をもっている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

- ①自らの福祉観と、人間への深い関心と尊厳をもって、社会福祉ニーズに対する姿勢を身につけている。
- ②人間や社会に関する専門的見識、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と科学的思考力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学びを獲得している。
- ③社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、社会福祉に関する今日的な課題を理解している。
- ④社会福祉の専門職として専門的知識や技能を修得している。
- ⑤変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

(教育内容)

- ・社会福祉学、介護福祉学、精神保健福祉学の基盤となる、社会福祉の基礎知識、倫理観、福祉観、医学的知識および現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学ぶ。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学ぶ。
- ・共通科目は、専門分野の枠を超えた、人間としての在り方や生き方を学び、21世紀の地球市民に求められる知的な技法と国際的教養と豊かな人間性を養うための科目区分である。具体的には、共通科目は、教養科目（人文系・社会系・自然系・複合系）、コミュニケーション科目（言語系・情報系）、保健体育科目、セミナー科目の4つに区分して配置している。
- ・専門科目は、社会福祉専門職に必要な知識・技術を修得するための、社会福祉の基礎知識と医学・心理学等の学びを中心とした専門基礎科目と専門的知識や実践力を身につけ、社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、解決に導く実践方法を学ぶための専門科目をバランス良く配置をしている。
- ・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の資格取得に向け、医療福祉の専門領域や分野別に体系性・順序性を考えて配置している。また、スクールソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーなど現代社会のニーズに応える専門教育を学ぶことができる。社会福祉は、実践の科学であるため、演習・実習に重点を置き、充実を図っている。

(教育方法)

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員による国家試験対策のための時間を開設する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに国家試験対策における学修状況により総合的に行う。

医療福祉学科

アドミッション・ポリシー

医療福祉学科では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指す。子どもから高齢者まですべての人が、生活の質を高め、より幸せな生活が送れるよう支援を行うことを業とする社会福祉の専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士）は、支援を必要としている一人ひとりに寄り添うことから、社会の制度を変えていく働きかけまで幅広い活動を行っている。

そのため、社会と人に関心を持ち、何事にも積極的に取り組む姿勢、豊かな創造性がある次のような人を求める。

- 1 人の話を聞くことができること
- 2 人の痛みを理解し共感できること
- 3 創意工夫ができること
- 4 他者と協働して何かを成し遂げた経験があること
- 5 基本的な生活習慣が確立し、道徳的実践力を備えていること
- 6 部活動や生徒会活動での指導的な役割や地域社会でのボランティア活動の経験があること

こども学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身に付けておくべき内容、卒業後の職業や社会生活上身に付けておきたい技能、社会人として身に付けておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について、十分に体得している と認められる者に学士（児童学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

身近な動植物や玩具ならびに教材を活用して子どもの生命や自然に対する感受性を育み、遊びと学習によって子どもの好奇心、創造力、生きる力を育むための学術的知識と実践的な活動能力を身につけている。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

幼少期ならびに児童期の子どもを対象として、命の温もり、自然の美しさ、不思議さなどを伝え、豊かな子ども文化の創造と能動時な学習ならびに生きる力の育成に貢献するための高度な専門的知識と実践的スキルを身につけている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

知・情・意の均整のとれた健全な人格を備え、「身近な動植物・玩具および科学技術」を豊かな子ども文化の創造と能動時な学習ならびに生きる力の育成のために教育活用するのみならず、そのための効果的教育手法の開発を志向し実践する態度を備えている。

【総合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

未来を担う子どもたちの健全な生きる力と感受性を育み、豊かな子ども文化の創造と能動時な学習に寄与する教育的指導者である。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・教養科目、こどもと教育・保育、自然と科学に関する講義、演習および実習を通じて、広義のこどもの文化的な活動と児童期の能動的な学習ならびに生きる力の発達を支援できる人材を育成するカリキュラムを編成している。
- ・こども学、保育学、教育学、自然科学の分野間の連携を前提とした国家資格・免許取得の講義科目を配置するとともに、臨床的実践の重要性を踏まえ、総合的で段階的な演習、実習科目を配置する。
- ・専門科目の相互理解を重視し、資格・免許取得の意欲を促すとともに、次世代を担う子どもたちが元気に成長して生きる力を備え、そして能動的に学習できる社会作りを主導できるキャリア形成を支援する。

（教育方法）

- ・専門科目では、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員、教職センターによる教員採用試験対策のための時間を開設する。

（教育評価）

- ・4年間の学修成果は卒業研究（選択）によって行い、論文指導教員の指導の下で総合的に評価を行う。卒業研究に着手するためには、3年次修了時に92単位以上を修得していなければならない。

アドミッション・ポリシー

こども学科では、動物やロボット、自然環境を活用した新しい教育方法を構想し、子どもにのちに対する豊かな感受性と自然に対する幅広い好奇心を育み、伸び伸びとした主体性と創造力を引き出すことのできる、教員・保育者の養成を教育目標としている。

子どもが夢と希望を育むことのできる豊かな子ども文化を創造するために、子どもや教育・保育への関心とともに、動物や自然や科学に関心を抱き、文系理系の枠にとらわれずその素晴らしさを深く学びとることができる豊かな感性と強い意志を持ち、子どもに夢と希望を与えることを目指す人の入学を希望する。

なお、次の1～3の経験がある方が望ましいと考える。

- 1 小学校や幼稚園、保育所、福祉施設などでボランティアの経験がある
- 2 理科や芸術（教科）や体育の授業に積極的に取り組んでいる
- 3 学習・保育教材として活用できる作品を制作したことがある

児童教育学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で学修すべき内容、卒業後の職業、社会生活上必要な技能、市民、社会人として身につけるべき態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（児童学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

- ①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、21世紀に生きる子どもを育てる上で必要な教育・保育に関する今日的な課題を理解している。
- ②教育・保育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・心理学・教科教育学・保育学などの専門的知識や技能を修得している。
- ③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

- ①子どもに対する深い愛情と教育者・保育者としての責任と誇りを持ち、絶えず研究と修養に努める能力を身に付けている。
- ②教育者・保育者としての常識を身につけ、自分の意見を持って、他者（子ども・保護者・同僚・上司など）とのコミュニケーションをとる能力を身につけている。
- ③子どもをよく観察・理解し、そのよさや可能性を引き出す指導（保育）計画の立案及び実践ができる力量を身につけ、反省的思考による改善に意欲的に取り組む力を身に付けている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

- ①専門職としての教育者・保育者の使命感・倫理観・規範意識を身につけ、子ども・保護者・地域から信頼を得られる道徳的実践力を身につけている。
- ②子ども・同僚に学び、省察と改善を基に、絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢をもっている。
- ③批判的思考力やコミュニケーション能力をもった自律した教育者・保育者であり、学習者としての態度や志向性を身に付けている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

- ①自らの教育観・保育観として、「子どもを慈しむ温かい心」「いのちの大切さを伝える」ことを基本にしていることである。
- ②4年間の学修をとおして、乳幼児から小学生までの連続した子どもの成長を多面的・総合的に捉え直し、時代が求める教育及び保育の課題に挑戦する意欲と実践的指導力を身につけていることである。
- ③子ども理解や人間・社会に関する専門的識見、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と批判的判断力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学び方を獲得していることである。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・21世紀を生き抜く子どもを育成するうえで不可欠な教育学・心理学・教科教育学・保育学などの専門的知識や技能の学修と研究を通して、子どもを慈しむ温かい心といのちの大切さを伝える力量を備えた人材を育成するカリキュラムを編成している。
- ・幼稚園教諭、小学校教諭の免許、保育士の資格取得に必要な講義科目及び演習・実習科目を配置し、理論と実践を往還しながら乳幼児から小学生までの連続した子どもの成長を多面的・総合的に学修するカリキュラムを編成している。
- ・教育者・保育者は、自らが学習する主体として絶えず研究と修養を積み重ね自己成長する存在であることから、学習者としてのキャリア形成を自発的・積極的に実現可能にする専門性と本学科の特性を生かした多様な選択科目を配置している。

（教育方法）

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員、教職センターによる教員採用試験対策等のための時間を開設する。

（教育評価）

- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。

幼児保育学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で学修すべき内容、卒業後の職業、社会生活上必要な技能、市民、社会人として身につけるべき態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（児童学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

- ①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、21世紀に生きる子どもを育てる上で必要な教育・保育に関する今日的な課題を理解している。
- ②教育・保育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・心理学・保育学などの専門的知識や技能を修得している。
- ③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

- ①子どもに対する深い愛情と教育・保育者としての責任と誇りを持ち、絶えず研究と修養に努める能力を身に付けている。
- ②教育・保育者としての教養を身につけ、自分の意見を持って、他者（子ども・保護者・同僚・上司など）とのコミュニケーションをとる能力を身につけている。
- ③子どもをよく観察・理解し、そのよさや可能性を引き出す指導計画の立案及び実践のできる力量を身につけている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

- ①専門職としての教育者・保育者の使命感・倫理観・規範意識を身につけ、子ども・保護者・地域から信頼を得られる実践力を身につけている。
- ②子ども・同僚に学び、省察と改善を基に、絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢をもっている。
- ③批判的思考力やコミュニケーション能力をもった自律した教育・保育者であり、学習者としての態度や志向性を身に付けている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

- ①知・情・意の均整のとれた価値観を身につけ、子どもを慈しむ温かい心を持ち「いのちの温もりと自然の豊かさ」と美しさを伝える」ことを基本にしていることである。
- ②4年間の学修をとおして、乳幼児期の子どもの成長を多面的・総合的に捉え直し、時代が求める教育及び保育の課題に挑戦する意欲と実践的指導力を身につけていることである。
- ③子ども理解や人間・社会に関する専門的識見、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と批判的判断力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学び方を獲得していることである。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・教育・保育者及び社会人として必要な基礎的な教養を学ぶ。
21世紀を生き抜く子どもを育成するうえで不可欠な教育学・心理学・保育学・保育内容論などの専門的知識や技能の学修と研究を通して、子どもを慈しむ温かい心と命の大切さを伝える力量を備えた人材を育成するカリキュラムを編成する。（基幹科目・専門科目の配置）
- ・教育及び保育の課題を積極的に創出する意欲と実践的指導力の修得を支援する。
保育士、幼稚園教諭の資格取得に必要な講義科目及び演習・実習科目を配置し、理論と実践を結びつけられるように乳幼児の連続した子どもの成長を多面的・総合的に学修するカリキュラムを編成する。（講義・演習・実習科目の配置）
- ・専門職に求められる使命感・倫理観・規範意識を育てキャリア形成を支援する。
教育・保育者は、自らが学習する主体として絶えず研究と修養を積み重ね自己成長する存在であることから、学習者としてのキャリア形成を自発的・積極的に実現可能にする専門性のある、しかも学科の特性を生かした多様な選択科目を配置する。（専門性の高い選択科目の配置）

（教育方法）

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員、教職センターによる教員採用試験対策等のための時間を開設する。

（教育評価）

- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。

幼児保育学科

アドミッション・ポリシー

幼児保育学科では、子ども一人ひとりの思いに愛情を持って寄り添い、子どもの良さや可能性を引き出すことのできる、教養と実践力を備えた保育者を養成することを目的としている。

そのために、次のような人の入学を希望している。

- 1 基礎的な学力を有し、生涯にわたって学ぶ意欲を持っている
- 2 自然や社会に対する幅広い好奇心を持っている
- 3 ボランティア等の社会貢献活動に積極的に取り組む意欲がある
- 4 共感性と自己表現力を有し、円滑なコミュニケーションをとることができる

学校教育学科

ディプロマ・ポリシー

学科の卒業要件単位以上を修得し、学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容、卒業後の職業、社会生活上身につけさせておきたい技能、市民、社会人として身につけさせておきたい態度や志向性、学科として育てたい人間像について十分に身に付いていると認められる者に学士（学校教育学）の学位を授与する。

【知識・理解】 <学科として専攻する学問分野で身につけさせておくべき内容>

- ①社会人として必要な基礎的・基本的な教養の修得に加えて、21世紀に生きる児童・生徒を育てる上で必要な教育に関する今日的な課題を理解している。
- ②教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を修得している。
- ③変化する社会に柔軟に対応し、新たな課題に創造的に取り組むことのできる意欲と広い視野を備えた総合的・学際的な知識や学び方を獲得している。

【汎用的技能】 <学科として卒業後の職業・社会生活上身につけさせておきたい技能>

- ①児童・生徒に対する深い愛情と教育者としての責任と誇りを持ち、絶えず研究と修養に努める能力を身に付けている。
- ②教育者としての常識を身につけ、自分の意見を持って、他者（児童・生徒・保護者・同僚・上司など）とのコミュニケーションをとる能力を身につけている。
- ③児童・生徒をよく観察・理解し、そのよさや可能性を引き出す指導計画の立案及び実践ができる力量を身につけ、反省的思考による改善に意欲的に取り組む力を身に付けている。

【態度・志向性】 <市民・社会人として身につけさせておきたい態度や志向性>

- ①専門職としての教育者・保育者の使命感・倫理観・規範意識を身につけ、児童・生徒・保護者・地域から信頼を得られる道徳的实践力を身につけている。
- ②児童・生徒・同僚に学び、省察と改善を基に、絶えず研究と修養を積み重ね、自らを成長させようとする姿勢をもっている。
- ③批判的思考力やコミュニケーション能力をもった自律した教育者であり、学習者としての態度や志向性を身に付けている。

【統合的な学習経験と創造的思考力】 <学科として育てたい人間像>

- ①自らの教育観として、「児童・生徒を慈しむ温かい心」「いのちの大切さを伝える」ことを基本にしていることである。
- ②4年間の学修をとおして、児童・生徒の成長を多面的・総合的に捉え直し、時代が求める教育の課題に挑戦する意欲と実践的指導力を身につけていることである。
- ③児童・生徒理解や人間・社会に関する専門的識見、広い視野と異質なものへの理解力、多面的な思考力と批判的判断力、人間らしさなどを身につけ、学際的な学び方を獲得していることである。

カリキュラム・ポリシー

建学の精神に基づき、学科が定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行う。

（教育内容）

- ・教員免許取得に関わる教育専門職の科目を核にして、科学的素地を有する教育的指導力を備えた人材養成を行うために、次のような教育課程を構成している。
- ・共通科目は、専門分野の枠を超えた、人間としての在り方や生き方を学び、21世紀の地球市民に求められる知的な技法と国際的教養を養うための科目区分で構成する。具体的には、共通科目は、教養科目(人文系・社会系・自然系・複合系)、コミュニケーション科目(言語系・情報系)、保健体育科目、セミナー科目の4つに区分して配置する。
- ・専門科目は、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する対する基礎知識を得る「教職基礎科目」と専門的な教科指導に必要な諸方法や社会と学校との関わりについて学ぶ「教職応用科目」、専門的な教科指導に必要な教科内容の基礎を学ぶ「教科基礎科目」、理科・保健体育などを専門とする教員に必要な高度な教科内容を学ぶ「教科応用科目」に区分して配置する。
 - (a) 教職基礎科目は、「教育原理」、「発達心理学」、「教育心理学」等の基幹科目を配し、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する基礎的理解力を養成する。
 - (b) 教職応用科目は、「教科教育法」、「道徳教育の理論と実践」、「特別活動論」、「教育方法論」、「教育実習」等の基幹科目を配し、教科指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教職に不可欠な教育手法と技能を養成する。
 - (c) 教科基礎科目は、教科に関する基礎技能科目群として「国語」、「算数」、「科学基礎」、「物理学実験」、「体づくり」、「運動学」等を配し、小中高等学校教育の教科指導に必要な教育内容に関する理解力を養成する。
 - (d) 教科応用科目は、教科に関する応用技能科目群として、「ロボット応用教育演習」、「物理学特論Ⅰ」、「化学特論Ⅰ」、「生物学特論Ⅰ」、「運動心理学」、「武道教育論」、「運動指導論」等を配し、理科や保健体育などを専門とする教員に必要な高度な教科内容に関わる応用的理解力と実践的技能を養成する。

学校教育学科

(教育方法)

- ・専門科目は、少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・専門科目では、講義・演習科目、実習科目の整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・学科教員、教職センターによる教員採用試験対策等のための時間を開設する。

(教育評価)

- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。

アドミッション・ポリシー

学校教育学科では、未来社会を担う児童・生徒の教育に貢献するために、小学校教育及び理科教育、保健体育教育に関する高度な専門知識はもちろんのこと、豊かな人間性やコミュニケーション能力、広い視野を持った教員を養成することを目的としている。コースを問わず、大学4年間で身に付けて欲しい資質能力は、「規律正しさ」と「学び続ける力」である。

そのため、入学者に対しては、基本的な生活習慣が確立し、道徳的な実践力が備わっていることが求められる。その上で、高等学校までの全教科にわたる基礎的な学力を有し、小学校コースでは子どもの発達や成長に、中高理科コースでは理系科目に、中高保健体育コースではスポーツや健康に対して、それぞれ興味関心をもち、自ら学び考えることのできる人を求めている。

また、部活動や生徒会活動での指導的な役割や、小学校・中学校・施設等でのボランティア体験などの地域貢献活動に積極的に取り組む意欲がある人を求めている。

総合教育センター

カリキュラム・ポリシー

総合教育センターは、大学教育における専門課程とならぶ教育の両輪の一つとして、専門課程と協力・連携しながら全学的な立場で学生一人ひとりの自己形成と人間性の養成に応える教育を進める。あわせて、初年次教育を充実させると共に、全学年を通じた学士課程教育に求められる社会基礎能力、自己実現能力、組織的行動能力を養うことで、豊かな知性と感性と意欲を兼ね備えた、社会の一員として活躍できる学生を育てる。

自然系教養科目

(教育内容)

自然系科目の基礎を学び直し専門課程の学修に役立てることを目指す。具体的には、数学、物理学、化学、生物学における、中学・高校レベルの復習も含めた大学初年次レベルにかけての内容を教授する。数学では、中学・高校数学の復習（数学の基礎）、推測統計学の基礎（統計学入門）、微分積分学・線形代数学（数学Ⅰ、Ⅱ）を学び、数理的な考え方を理解してもらう。物理学では、ニュートン力学や古典電磁気学の基礎を学習し、科学的方法とは何か理解する。化学では、物質の成り立ちと性質、そして、化学変化を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。生物学では、ヒトの体や細胞のしくみを学ぶことで、「いのち」についての教養を身につけ、専門課程へのステップとする。

(教育方法)

講義形式の中に問題演習の時間を設けて理解が確実にできるよう努める。また一部の科目では実験形式で行うことにより理解や関心を高めることを目指す。

(教育評価)

授業への出席率が高い学生は総じて理解度も高い。定期試験に加えて毎回の授業時の課題の提出状況を考慮する科目もある。また実験では出席しレポートを提出することを非常に重視する。

人文・社会・複合系教養科目

(教育内容)

人文・社会・複合系教養科目では、人類がこれまで辿ってきた人文・社会科学および複合的学問の歩みとその展開を学修者の日常的な経験や問題関心と関連づけながら教授する。そのことによって、人文・社会科学および複合的学問の考え方や成果が私たちの生きている社会や文化や歴史的現実の中で果たしている役割や意義について根源的かつ総合的に理解する学修者を養成する。

(教育方法)

人文・社会科学および複合的学問の題材を用いて、学問的コミュニケーションの作法としての「読み・考え・書き・伝える」といった学修活動の基幹能力の養成を促す多様な教育方法を重視する。そのことによって、学修者一人ひとりの学修スタイルや関心を育てつつ、生涯を通じて有用な根本的・教養的資源と自身の思考を適切に表現する言語運用能力の修得に努めさせる。

(教育評価)

成績評価については、各科目のシラバスに定めた到達目標に記載した内容を学修者が理解できているかという点を基準とする。具体的な評価方法については、各科目のシラバスに定めた定期試験、レポート、授業回毎のリアクションペーパー、ポートフォリオなどによって、多角的かつ総合的に評価を行う。

情報系コミュニケーション科目

(教育内容)

情報系コミュニケーション科目は、情報処理Ⅰと情報処理Ⅱから構成される。

情報処理Ⅰでは、まず情報モラルおよび情報セキュリティについて学習した後、実際にパソコンを用いて、インターネット、ワープロソフト、表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトについての実習を行い、これらの基本的な使い方をマスターする。

情報処理Ⅱでは、情報の検索および運用、数値分析、データベース、ファイル・データ管理、インターネットでのコミュニケーション、文章表現、プレゼンテーションの方法について実習を行い、実社会で役立つ情報活用の実践力を身に付ける。

(教育方法)

1人1台のパソコンを用いて実習を行う。テキストに沿って解説を行いながら、それを理解するための課題について毎回レポートを作成し提出する。最終回には作成した資料を基に実際にプレゼンテーションを行う。

(教育評価)

毎回提出されたレポートおよび最終回のプレゼンテーションの評価を基に成績を判定する。

総合教育センター

言語系コミュニケーション科目

(教育内容)

- ・グローバル社会で活躍できるよう、英語に対する興味関心を喚起し、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができる英語力を育成する。
- ・英語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことという四技能をバランスよく育成すると同時に、文法力、語彙力も強化する。
- ・中国語、韓国語といったアジア圏の言語を学ぶ機会を提供し、第2外国語への関心・意欲・態度を深めると同時に、言語の背景にある文化についての知識も涵養する。

(教育方法)

- ・基礎英語は、習熟度別クラス編成とし、個々の学生の英語力に見合った授業を展開する。
- ・教員による単調で一方通行の授業展開ではなく、会話練習やグループワークを中心としたアクティブ・ラーニングを展開する。また、CALL システムを用いた会話練習や e-learning による自学自習を適宜取り入れる。
- ・一斉授業の枠組みの中でも、学生によって与える教材の質や量を変えるなどの個別指導的な要素を取り入れた指導を行う。

(教育評価)

- ・定期試験だけでなく、日々の授業の中で行われたパフォーマンスや学習ポートフォリオなどを用いることで多角的な評価を行う。

資格科目（博物館学芸員）

(教育内容)

博物館学芸員資格課程では、動物園水族館や自然史博物館、科学館といった自然系博物館を中心に、生涯学習機関としての博物館で求められる素養を修得するため、専門的な視点（資料や展示、教育、経営など）からの教授とともに、実習を通じて実感を伴った理解を深める。

(教育方法)

博物館の現場や歴史に直接関わる講師陣を中心に、動物園や自然史博物館などの生物系情報をふんだんに取り入れることで、実践的かつ根源的な博物館理解の修得に努めさせる。

(教育評価)

講義においては各分野における博物館理解の修得の程度を確認し、学内実習において最低限の技量を身に付けていることを確認した上で、博物館の現場で行う館園実習により、真に博物館を理解した学生を養成する。

保健体育科目

(教育内容)

大学の建学の精神を具体化し、教育目的を達成するために「講義科目」、「演習科目」、「実技科目」をバランス良く配置し、基礎学力およびそれぞれの学科の専門知識や高い技能の修得のための教育課程を編成している。

(教育方法)

集団的な体育活動と講義を通し、健康やスポーツに関する教育的・科学的根拠に基づいた運動の方法や生活習慣の重要性について理解を深め、関心を高めさせるために多様なカリキュラムを計画している。

(教育評価)

講義科目については定期試験、レポート、小テストを重視して評価を行う。演習科目および実技科目については運動能力だけではなく、毎回の授業における積極性、協調性、向上心を含めて多角的に評価する。運動能力が高いだけの偏った人間にならないように指導を行っている。

教職センター

カリキュラム・ポリシー

教職センターでは、豊かな人間性と専門的な知識を備え、学習者を支援できる実践力を有し、さらには他者と協同して教育活動を実施できるコミュニケーション能力を備える教育者を養成することを教育目標とする。この教育目標は帝京科学大学の建学の精神および各教職課程認定学科が定めるディプロマ・ポリシーに対応するものであり、教職センターは各教職課程認定学科と連携をはかりながら、教育活動の編成・実施を行う。

(教育内容)

上述した教育目標を実現するため、教職センターは教員免許取得に関わる「教職に関する科目」を核とし、次のように教育課程を編成する。

- (a) 教職専門科目は、教職基礎科目と教職応用科目から構成される。教職基礎科目は「教職の意義等に関する科目」および「教育の基礎理論に関する科目」から成り、教育者に要求される子どもの発達や教育に関する対する基礎知識を修得することを目的とする。教職応用科目は「教育課程及び指導法に関する科目」および「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」から成り、専門的な教科指導に必要な諸方法や社会と学校との関わりについて学ぶことを目的とする。
- (b) 「教育実習」と「教職実践演習」では、上記の教職専門科目を通して学んだことを教育現場で実践し、それを振り返りつつ、教育者に不可欠な実践的指導力およびコミュニケーション力を養成する。
- (c) 卒業後の教職生活を見据えた科目として「教職ゼミ」などを設置し、キャリア形成に向けて自分自身を見つめ直しつつ「学び続ける教師」としての探究力を身につける。

(教育方法)

- ・少人数教育を積極的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- ・教職専門科目、演習科目、実習科目および「教科に関する科目」との整合性・連続性をはかり、往還的な授業を展開する。
- ・実習科目に対する意識を高めるため、教職センターは実習に関連した各種ガイダンス・講習会を定期的で開催する。
- ・教職センターは各教職課程認定学科と連携をはかりつつ、個々の学生の希望に応じた教員採用試験対策等のための時間を開設する。

(教育評価)

- ・各科目のシラバスに明記した成績評価基準・方法に基づき、評価を行う。
- ・履修生は「教職履修カルテ」による自己評価を定期的実施し、教職センターはその記載内容に応じた個別指導を行う。
- ・4年間の学修成果は修得単位数、評点及び実習の状況並びに教員採用試験対策等における学修状況により総合的に行う。